

ヨハネの手紙第一5章18-19節 「悪い者から守られる方」

1A 神の守り 18

1B 神から生まれた者

2B 神から生まれた方の守り

3B 触れることのできない悪い者

2A 悪い者の支配 19

1B 神のもの

2B 世全体の支配

本文

ヨハネの手紙第一5章を開いてください。今晚は、18-19節を見ていきます。「¹⁸神から生まれた者はみな罪を犯さないこと、神から生まれた方がその人を守っておられ、悪い者はその人に触れることができないことを、私たちは知っています。¹⁹私たちは神に属していますが、世全体は悪い者の支配下にあることを、私たちは知っています。」

私たちは前回、罪を犯している兄弟のために祈ることについて見てきました。死に至らない罪、つまり、イエスを主と認め、歩んでいるけれども、そこから外れてしまっている兄弟がいたら、彼のために執り成し祈ることによって、彼が主に立ち帰るかもしれないという内容です。死に至る罪もあるけれども、それについては願うようにはいいません、とありました。それは、イエスが神の御子であることを否定している者たちのことで、反キリストともヨハネが読んだ偽教師たちのことを指しています。明確に、彼らは世に属し、自分たちは神に属していて、その神に属している者たちが、互いに注意し合って、キリストにあって守られることを励ますことを教えていました。

それでヨハネは、神から生まれた者について、悪い者から守られているという励ましを与えています。「**私たちは知っています**」と二回、言っていますね。20節でも使っているので、三回連続使っています。ヨハネの大好きな言葉です。グノーシス系の異端の教師たちが、自分たちがいかにも、他の信者には知られない隠された真理を知っていて、他の信者たちから離れて行ったという経緯がありますから、それでヨハネは敢えて、知っていることをたくさん並べています。知るには、二つのギリシア語があり、一つは体験的に知るギノースコウです。もう一つが、直感的に知っているオイダスです。この三つは追い出すです。私たちが体験していなくても、直感的に、私たちは悪い者、悪魔から守られているということは知っている内容であります。

1A 神の守り 18

1B 神から生まれた者

まず、「**神から生まれた者はみな罪を犯さないこと**」を知っています。ヨハネは何度となく、福音

書の中で、また第一の手紙で、神によって生まれることについて話しました。罪を犯さないことについては、第一の手紙3章9節でこう書いています。「神から生まれた者はだれも、罪を犯しません。神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。」神の種とって、そこから出て来る実は必ず、神にかなったものです。神のご性質にあずかったのだから、罪を犯したままではいけないのです。「Ⅱペテ 1:4 その栄光と栄誉を通して、尊く大いなる約束が私たちに与えられています。それは、その約束によってあなたがたが、欲望がもたらすこの世の腐敗を免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。」神のご性質にあずかる者となりました。

ここで大事なものは、罪を犯さないというのは、ギリシア語の時制では「罪を犯しているということにはならない」という言い方になっています。現在進行形で書かれています。ですから、罪の中に留まっていることはできないということでもあります。罪を犯してしまうかもしれませんが、そこに留まることはできないのです。このことについては、パウロもロマ書で何度となく論じてきました。「ロマ 6:2b 罪に対して死んだ私たちが、どうしてなおも罪のうちに生きていられるでしょうか。」罪に対しては死にました。ですから、その中で生きることはできません。時に私たちキリスト者は、肉のからだにある罪の律法でがんじがらめになることもあります。しかし、その時でさえ、自分で罪を犯していることをよとしていないのです。「ロマ 7:16-17 自分のしたくないことを行っているなら、私は律法に同意し、それを良いものと認めていることになります。17 ですから、今それを行っているのは、もはや私ではなく、私のうちに住んでいる罪なのです。」

そして、私たち信じる者に、神が御霊をくださったということが決定的です。御霊をくださって、私たちは神によって生まれた、神の子どもになりました。そのことによって、罪と死の力から解放されて、御霊に従うことによって、肉の行いを殺すことができるようになったのです。したがって、罪の中に留まることはもはやできないのです。使徒ヨハネは、自分の肉体が行うことは、神を知ることにおいては関係ないとするグノーシス系の偽教師たちは、罪を犯すままにしていたのですから、はっきりとその偽りを明らかにしました。

2B 神から生まれた方の守り

次に、「神から生まれた方がその人を守っておられ」とあります。ここの、「神から生まれた方」と敬語になっているんですね、神から生まれたのが、私たちイエスを信じる者たちではなく、キリストご自身という解釈による翻訳です。これは、新改訳以外に、口語訳もそうになっています。共同訳では、そうではなく、「神から生まれた人は自分を守り」と訳しています。新改訳では、下の欄に別訳として、キリストご自身ではない、神から生まれた人になっています。

ここでは、新改訳や口語訳にしたがった、キリストご自身であるという解釈に則って説明していきます。キリストが神から生まれるというのは、どういうことなのか？確かに、イエス様は処女マリアの胎から、聖霊によってお生まれになりました。そういった意味で神から生まれた方、神の子

であると言えます。しかし、イエス様が神から生まれた方という時は、詩篇 2 篇を引用したパウロが、イエスの復活を指しています。「使 13:33 神はイエスをよみがえらせ、彼らの子孫である私たちにその約束を成就してくださいました。詩篇の第二篇に、『あなたはわたしの子。わたしが今日、あなたを生んだ』と書かれているとおりです。」イエス様が、確かに神の御子であることが明らかに、公にされたのが、主が死者の中からよみがえられた時だということです。「ロマ 1:3b-4 御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、4 聖なる霊によれば、死者の中からの復活により、力ある神の子として公に示された方、私たちの主イエス・キリストです。」

ですから、神から生まれた方、死者の中からよみがえられたイエス様が、私たちを守っておられるということです。ペテロは、第一の手紙で、イエス様の復活によって、私たちが新しく生まれ、神によって守られていることを次のように述べています。「1:3-5 私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさせ、生ける望みを持たせてくださいました。4 また、朽ちることも、汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これらは、あなたがたのために天に蓄えられています。5 あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりの時に現されるように用意されている救いをいただくのです。」ですから、イエスがよみがえりのいのちにより、私たちを御霊によって新しく生まれさせ、そのいのちにあって私たちに悪い者から守ってくださいます。

その「**その人を守っておられ**」ることについてですが、イエス様は何度となく、ご自分の手から私たちを手放さないことをお語りになっていました。「ヨハ 10:27-29 わたしの羊たちはわたしの声を聞き分けます。わたしもその羊たちを知っており、彼らはわたしについて来ます。28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは永遠に、決して滅びることがなく、また、だれも彼らをわたしの手から奪い去りません。29 わたしの父がわたしに与えてくださった者は、すべてにまさって大切です。だれも彼らを、父の手から奪い去ることはできません。」そして、はっきりと、イエス様が父なる神に、彼らを父の名で守ったと祈っている部分があります。「ヨハ 17:12 彼らとともにいたとき、わたしはあなたが下さったあなたの御名によって、彼らを守りました。わたしが彼らを保ったので、彼らのうちだれも滅びた者はなく、ただ滅びの子が滅びました。それは、聖書が成就するためでした。」続けて、悪い者から守ってくださいと願っています。「ヨハ 17:15 わたしがお願いすることは、あなたが彼らをこの世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださいます。」なんとすばらしいことでしょうか！私たちはしばしば、自分の努力によって、自分の信仰によってかろうじて、自分自身が守られていると思ってしまいがちですが、いいえ、イエスご自身の執り成しと守りによって、私たちは守られているのだということです。

3B 触れることのできない悪い者

そしてヨハネは、「**悪い者はその人に触れることができない**」と言っています。私たちはちょうど、ロマ 8 章の学びをこの前の日曜日に終えました。パウロは、「8:31 神が私たちの味方であるなら、

だれが私たちに敵対できるでしょう。」と言いました。選ばれた者たちを訴えることはできず、罪あるともできない、と言いました。預言者イザヤは、こう言っています。「54:17 あなたを攻めるために作られる武器は、どれも役に立たなくなる。また、あなたを責め立てるとんな舌も、さばきのときに、あなたがそれを不義に定める。これが、【主】のしもべたちの受け継ぐ分、わたしから受ける彼らの義である。——【主】のことば。」イスラエルの民に対して呪おうとしたバラムに対して、神が介入された時のことを思い出してください。ヨシュアが述懐して、こう話しています。「ヨシ 24:9 モアブの王、ツィポルの子バラクは立ってイスラエルと戦い、あなたがたを呪うために、人を遣わしてベオルの子バラムを呼び寄せた。10 しかし、わたしはバラムに耳を傾けようとしなかった。彼はかえって、あなたがたを祝福し、こうして、わたしはあなたがたをバラクの手から救い出した。」

神の特別な許可があって、かろうじてサタンが神に属している者に触れた箇所があります。ヨブ記です。サタンが、神をそそのかして、ヨブが神を恐れているのは、「1:10 あなたが、彼の周り、彼の家の周り、そしてすべての財産の周りに、垣を巡らされたのではありませんか。」と訴えています。それで神は敢えて、それに触れることを許されましたが、ヨブ自身には手を伸ばしてはならないと命じられます。それからサタンはさらに、彼の骨と肉を打ってみてくださいと言うので、神はそれもサタンに任せますが、「彼のいのちには触れるな。(2:6)」と言われるんですね。神は、垣を造られてサタンから守られている様子がよく分かります。

しばしば、キリスト教会で必要以上に悪魔の力を強調することがあります。悪霊追い出しについて、私もそれはイエス様の大きな働きの一つであり、使徒たちもイエスの御名によって行っていたので、私たちもイエスの御名によって行っていくことができるし、悪霊に遭遇したら行っていくべき働きだと思っています。けれども、イエスを信じている者が神から生まれていて、神から生まれた方、キリストが私たちを守り、私たちに悪い者が触れることができないと言っているのなら、悪霊がその人にとりつくということがあるのでしょうか？まだイエスを主としていない人であれば、十分にあり得ることなのですが、主を信じた人が悪霊にとりつかれるということはないと思います。しかしヨハネは第一の手紙で言いました。「4:4b あなたがたのうちにおられる方は、この世にいる者よりも偉大だからです。」神から生まれた者は、内にキリストがおられ、この方はこの世にいる者、つまりサタンより力を持っておられるのです。サタンの力を見くびってはいけません、すでにキリストにあって勝利をしており、私たちは、御子を信じる信仰に留まっていることこそが、悪魔に対する勝利なのです。

2A 悪い者の支配 19

そしてヨハネは、「¹⁹ 私たちは神に属していますが、世全体は悪い者の支配下にある」と言っていますね。

1B 神のもの

「**神に属して**」いるというのは、神のものになっているということです。これは、神から生まれたと

ということですし、神にキリストの流された血によって買い取られて、神の所有になっているということでもあるでしょう。私たちは、ロマ 8 章で、御霊によって神のものになっていることが証しされていることを学びました。「ロマ 8:15 あなたがたは、人を再び恐怖に陥れる、奴隷の霊を受けたのではなく、子とする御霊を受けたのです。この御霊によって、私たちは「アバ、父」と叫びます。16 御霊ご自身が、私たちの霊とともに、私たちが神の子どもであることを証ししてくださいませ。」

それゆえ、御霊に従うなかで、神に属することを考えるようになります。「ロマ 8:5 肉に従う者は肉に属することを考えますが、御霊に従う者は御霊に属することを考えます。」世に属することに、興味を示さなくなっていくます。それが、例え、知識を持っていると言われる、グノーシス系の偽教師についても言えたのです。ヨハネは第一の手紙でこう言いました。「4:5-6 彼らはこの世の者です。ですから、世のことを話し、世も彼らの言うことを聞きます。6 私たちは神から出た者です。神を知っている者は私たちの言うことを聞き、神から出ていない者は私たちの言うことを聞きません。それによって私たちは、真理の霊と偽りの霊を見分けます。」キリスト教のことについても、非常に知識のある人であっても、実は、世のことを話していることがわかります。そしてその人の話を聞いている人々も、世のことに聞き入っていることもあるのです。

神に属しているので、世からは切り離されています。イエス様が父なる神に祈られました。「ヨハ 17:14 わたしは彼らにあなたのみことばを与えました。世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではないからです。」それゆえ、神への愛と、世への愛は相いれないことをヨハネは手紙の中で言いました、「2:15 あなたは世も世にあるものも、愛してはいけません。もしだれかが世を愛しているなら、その人のうちに御父の愛はありません。」ヤコブも自分の手紙の中で話しています。「4:4 節操のない者たち。世を愛することは神に敵対することだと分からないのですか。世の友になりたいと思う者はだれでも、自分を神の敵としているのです。」

したがって、世で起こっていることに対して、悩み、うめき、苦しむことがあります。ロトは、ソドムに住むことになってしまいましたが、その心はまだ主から離れていませんでした。「Ⅱペテ 2:8 この正しい人は彼らの間に住んでいましたが、不法な行いを見聞きして、日々その正しい心を痛めていたのです。」

2B 世全体の支配

そして知らなければいけないのは、「**世全体は悪い者の支配下にある**」ということです。アダムが罪を犯してから、アダムは神に任された被造物の支配を、悪魔に明け渡してしまいました。それで、悪魔は、「世の神」(Ⅱコリ 4:4)とも呼ばれています。イエス様が、悪魔から誘惑を受けられ、悪魔が次の誘いをした時に、否定されませんでした。「マタ 4:8-9 悪魔はまた、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての王国とその栄華を見せて、9 こう言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これをすべてあなたにあげよう。」」イエス様は、ただ神である主を礼拝しなさい、と書いてあると言われて対抗されましたが、悪魔にこの世のすべての王国と栄華があることは否定され

なかったのです。

キリスト教会も、この世にあるものに何か希望があるかのごとく、この世のものを取り入れることがあります。神が憐れみの中で、この世にあるものを用いられることはあります。けれども、そこに希望を置いたり、期待をしたらいけません。どんなに優れているように見えても、所詮、それは悪魔の支配から免れていることはないからです。

例えば、政治があります。去年は、アメリカの大統領選で、数多くの人がトランプこそが世を救う人であるかのごとく、一種の闘争状態に陥りました。彼が神に用いられていると言うのであれば分かりますが、彼でなければアメリカはおしまいだ、この世はおしまいだという考えは、まさに悪魔の思い壺になってしまいます。人間の政治は、悪魔の支配から免れておらず、そこにキリスト者が満足できる完全な形態はないのです。キリスト教会が逆に、社会主義や共産主義運動に加担していく歴史もありました。また、心理学や精神医学などもそうでしょう。人の心のあり方を知るのに、心理学が役に立つことはあるでしょう。けれども、そこに希望をおけば、教会の宣べ伝える福音は、福音でなくなります。私は、ある教団の指導的役割にある人が、誰かが落ち込んでいる時に、「祈りが必要なのではない、薬があればいいの。」と言ったことがあると聞いたことがあります。セミナーを開いたら、神のみことばではなく、心理学に基づいたものだったということも聞きました。

私たちは、世に生きていますし、世にあるものによって福音を語ります。しかし、希望は福音のみです。それがたとえ愚直に見えても、それでも私たちは語り続けるのです。グノーシス的な異端は、知識を吹聴しましたが、しかし、人の知恵は神の前に愚かであるとパウロが言いましたね。「I コリ 1:21 神の知恵により、この世は自分の知恵によって神を知ることがありませんでした。それゆえ神は、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救うことにされたのです。」

そして、主にある者たちは、いつしか、悪魔の支配する世そのものから救い出されることが約束されています。「ガラ 1:4 キリストは、今の悪の時代から私たちを救い出すために、私たちの罪のためにご自分を与えてくださいました。私たちの父である神のみこころにしたがったのです。」このように、私たちが霊の戦いの中にいることを忘れないようにしましょう。大きな霊の戦いです。世全体は悪い者の支配にありますが、福音によって人々が悪魔の支配から御子の支配に移されません。そして、悪魔をこの世の滅びの後で滅ぼされます。キリストの内にある者は守られて、この世から救い出されます。